

第2回 講義

課題解決から地域活動へ「そう思ったからそうなんだ！」

常設サロン南粕谷ハウス 事務局長 石井 久子 氏

1 地域紹介

南粕谷は、知多市の中でも最南端に位置しており、人口規模の小さな地域である。そこには、南粕谷小学校区の住民で組織されているコミュニティがある。

南粕谷地域は、昭和47年から50年にかけて同世代の人々が一気に転入を始め、住民数は、元の4倍まで増加した結果、他の地域よりも高齢化の進展が早く、現在の高齢化率は40%を超えている。地域住民は、同世代が転入してくるということで高齢化という課題が到来するといち早く気が付いていた。そのため、行政の対応を待つのではなく、「自らの地域の課題は、自分たちで」と考え、地域住民が力を合わせて活動をしている。コミュニティの役員は、「地域の融和と次の世代にバトンを渡すこと」をやりがいとして活動をしている。



2 地域の課題は地域の資源「生涯学習のまちづくり」

(1) 地域文庫

高齢化という課題解決のために、平成10年に小学校を拠点とした「生涯学習のまちづくり」に取り組んだ。これは、昭和53年に開校された生徒数が1,300名という大規模小学校（現在は250名）の生徒数の激減により、大規模小学校の空き教室の維持・管理という観点に立つ取組である。

学校を整備し、子供を見守ることと、学校の中に自分たちの拠点地をつくるということを両立する活動を始めた。具体的には、学校図書館の中に「地域文庫」をつくり、学校の図書館を管理しながら、地域の図書館としても活用するという形式で図書館を利用している。ボランティアで傷んだ本を修理したり、掃除も当番で実施したりしている。また、学校内の余裕教室を利用し地域の「生涯学習ルーム」もつくり、そこで地域の大人が会議を開催したり、習い事で利用したりする目的で開放している。

(2) 「元気会」

南粕谷は、老人会への加入率は90%以上と高いが、決まった人が活動するのみで、全員の参加が得られているわけではない。どんな活動であれば積極的に参加してもらえるのかと考え、発足したのが月2回開催している「元気会」である。お坊さんの講話や楽器の演奏など、老人会とは異なる活動を実施し、老人会に参加しない人の受皿となっている。

(3) 「おたすけ会」

平成19年度に発足したこの会は、「元気会にも出てこない人はどうしているのだろう」と気付き発足した。専用電話を持っているボランティアへ電話で依頼をし、困り事がある家に出向くサービスである。

支援内容は、専門業者に頼むほどではない軽微な事柄である。例えば、電球の交換や草むしり等である。

何人で援助に行っても1回100円で利用できるサービスである。

(4) 南粕谷ハウス

平成22年コミュニティ主催で「5年後、10年後の南粕谷」について議論をし、県からの補助金を受け創設した施設である。施設での活動内容について住民にアンケート調査を実施し、その内容

を活動に反映することで住民の参画意識はとても高い。

3 活動からの気付き「そう思えば そうなんだ！」

(1) 「あるおじさん」

地域では煙たがられているおじさんが、毎朝南粕谷ハウスにやってくる。彼はボランティアの人に何か難癖を付けながらコーヒーを飲んで帰っていく。そんな彼を、実は、南粕谷ハウスの一番のファンではないかと思うことで、彼を仲間として受け入れている。

(2) 「ピアノ」

現在ハウス内にピアノが設置されている。設置のきっかけは、清掃センターからのもらってもらいたいとの申出であった。置き場所の問題や、運搬費を考え断っていたが、清掃センターの職員の好意で、無料で運搬してもらい設置することとなった。

すると、偶然にもハウスの利用者の中に音楽の先生がおり、その方からの「みんなで歌おう」との呼びかけで歌を歌うこととなった。その縁をきっかけにクリスマスにロシア民謡のコンサートを開催することになった。すると今度は、ロシア民謡コンサート参加者の中に、ロシア料理が得意な方がおり、ロシア料理イベントで盛り上がった。正に幸せを運んでくれたピアノである。

(3) 「自動販売機」

南粕谷ハウスの駐車場に自動販売機を設置することは、発想の転換につながった。当初は電気代がかかるため、自動販売機を設置することは断っていたが、現在は、5,000～6,000円ほどの収入がある。「マイナス思考で考えるのではなく、何でもやってみるものだ、駄目ならやめればよい」という発想につながった。

(4) 巣立つ若者

ハウスで、コーヒー豆を販売させてほしいと頼まれ、活動してもらった若者は、現在は独立し自らの力で活躍している。また、ケーキを置かせてもらいたいと頼んでいたパティシエは、現在はハウスには納品できないほどの超売れっ子となって大活躍している。巣立つ若者たちの姿を見るのは喜びである。

(5) 宗教家との交流

ある宗教家から、「ハウスで集まって楽しみたい」との申出があった。政治と宗教とは関係しない活動をと思い長年断ってきたが、宗教とは無関係の事柄で、皆が楽しめる内容であればと考え受け入れた。

一方的に線引きしていた人たちを受け入れることで、今まで関わる事がなかった新しい方々とのネットワークが広がった。

(6) 「そう思えば そうなんだ！」

「そう思えば、そうなんだ」という言葉は、自分たちが活動する中で見いだした魔法の言葉である。この言葉によりもめ事はなくなった。そのことで、活動する仲間は、気持ちが楽になり、楽になったことで楽しめるようになった。

4 次世代にバトンを渡すために、私たちにできること

地域活動に長年取り組んでいるが、完璧ではない。社会の変化に伴い生活も変化し、そのことが地域活動に影響を及ぼしている。

私たちは、先人が築いた時代を生きており、次の世代にバトンを渡すために今できることをやらね

ばならない。

5 みんなの力が必要なの

社会には、様々な受皿が存在することが大切である。その受皿を提供するためには、みんなの力が
必要であり、地域は人材の宝庫である。